

エネルギー―地産地消へ期待

木質バイオマス発電所が開所

【小山】木質バイオマス発電所「森の金太郎発電所」の開所式が二日、小山町上野の現地で行われた。

森の金太郎発電所は、エネルギーの地産地消、地域資源循環型林業の構築を掲げた湯船原地区で、環境と経済の好循環を図り、地域の活性化と林業の発展に寄与するため、未利用間伐材等を活用した木質ペレットを発電資源とした木質バイオマス発電所

【写真】込山町長らによってボタンが押される。小山町上野の木質バイオマス発電所



オマス発電所。施設は木造二階建て太陽光パネル葺きで、敷地面積九九五

・七三平方メートル、建築面積二八二・八四平方メートル、木質ペレットガス化熱電併給装置（ドイツ・ハンブルク社）の発電能力一八〇キロワット、熱供給能力二七〇キロワット。発電した電力は、今後二十年にわたって東京電力に固定価格買い取り制度で売電される。稼働当初は売電するだけだが、数年後には林業エリア内に建設が予定されている施設、隣接するアグリインダストリーエリアに進出する企業への売熱事業が予定されている。開所式で込山正秀町長が「発電所は平

成二十二年のバイオマスに関する閣議決定を受けて、町長マニフェストに入れ、バイオマスタウン構想の中に位置づけた。材料の木材が必要で、当初五〇〇キロワットを考えていたが、ペレットを使った小規模な施設に変更して今日を迎えるに至った。「災害を体験し、森林整備が重要であり、循環型の施設として発電所を設けた。

二割は電気、八割は電源で、町が主体となった会社を作り、日本初のシステムに成り得る」、佐藤典生静岡県政策推進担当部長が「ふじのくに内陸のフロンティアを拓く取組を展開しているが、地産地消、防災減災など先導的なモデルとして、安心安全なまちづくり、官民一体の取り組みを進めていく」などと挨拶した。

赤羽和親さん（川崎市）の「金太郎の故郷として知られる小山町に産まれる環境に優しい発電所として、多くの人々に親しまれるように」の思いで命名された「森の金太郎発電所」が紹介され、込山町長、米山千晴議長らによってボタンが押され、発電所が稼働した。